



治安① 警察

鉄道敷設で駐在所



時には脱獄囚の警戒にもあたった
起統青年会

北海道庁設置以来、農業、工業、林業、水産業などあらゆる方面にめざましい進展を示し、これに伴って、移民や出かせぎ人夫等が多数渡道して人口が急激に増えました。これらのなかには博徒無頼（ばくとぶらい）の徒が含まれていたため犯罪も増加しました。さらに、道路、鉄道工事では一部重犯罪人を使用していたので、囚人逃走事件が発生し、開拓農民を恐怖におとしめているなどのこともありました。

置戸では網走本線に建設列車が通り始めた明治43年秋より次第に居住する者も増え、人の往来も激しくなったため、同44年6月置戸市街東1丁目に置戸巡查駐在所が設置され、初代巡查三谷素一が配属となりました。置戸巡查駐在所は初め網走警察署の所管でしたが、大正2年に野付牛警察分署が新設されると同時にその所管に移りました。

その後、置戸は野付牛より分村、戸口も増加の一途をたどったことから同7年4月に野付牛警察署置戸巡查部長派出所が設置され、置戸・訓子府

・上常呂一円を監督区域と改めて、初代巡查部長佐久間彦三が配属となりました。

現在では警察の仕事も交通事故防止やその処理、防犯活動などが重点ですが、当時、事件はまれであり、地方では巡回警邏が主務となっていたので、「おまわりさん」という言葉はここから出てきたようです。しかし、たまには脱監囚で大騒ぎすることがあり、古くは平村エレコークが脱獄囚を撲殺したとか、起統青年沿革誌では大正5年8月27日に瀬戸口仁之助という凶悪犯が網走監獄から脱走、置戸方面に入ったという情報で、消防団や青年団が巡查の指示により徹夜で三日間、非常線をはった警戒とか、明治44年駅近くの浜島雑貨店に強盗が入り、河西貴一消防組頭たち私設消防団の応援でその強盗を逮捕したなどの事件が記録されています。またその頃は威勢のよい人が多く、切った張ったの現場へ警察官が仲裁に入ったなどの話も残されています。

(参照：置戸町史上巻)

柏原大樹くん（置中2年）が最優秀賞を受賞

常呂川・水かんきょうポスター図案コンクール

常呂川環境保全対策協議会が実施している「常呂川・水かんきょうポスター図案コンクール」の平成25年度審査結果が発表され、中学生の部で柏原大樹くん（置戸中学校2年）が、最優秀賞を受賞しました。

本コンクールは、水環境保全に関心をもってもらおうと常呂川流域の小中学生を対象に行われており、本年度の応募総数は320点、そのうち町内からの応募数は25点でした。

なお、優秀作品は2014年版ポスターカレンダーの図案とされ、流域の小中学校や、公共施設等へ配布されます。

（ポスターカレンダーの配布を受けたい方は、町民生活課住民生活係（☎52-3315）へお申し込みください）



中学生の部で最優秀賞を受賞した
柏原大樹くん（置中2年）の作品